

ISO/TC 68 国内委員会総会 議事録¹

日 時：2024 年 6 月 11 日（火）13：00～16：40
場 所：日本銀行本店（ハイブリッド形式：対面／Cisco Webex 会議）
出席者：ISO/TC 68 国内委員会 松本委員長・委員・リエゾン・事務局
日本銀行 武田決済機構局長、下田参事役 ほか

- 2024 年 6 月 11 日開催の「ISO/TC 68 国内委員会総会」は、新型コロナが終息しつつある中、本年 5 月開催の TC 68 年次会合（ミネアポリス・米国）もハイブリッド開催された環境変化を捉えてハイブリッド形式で開催²した。議事の模様は、以下のとおり（詳細は当日配付資料を一部抜粋した別添資料を参照）。

開会挨拶

ISO/TC 68 国内委員会委員長の松本産業技術総合研究所・フェロー、横浜国立大学・上席特別教授、日本銀行決済機構局の武田局長が開会挨拶を行った。

—— 松本委員長は、「ようやく対面およびオンラインによるハイブリッド形式で、ISO/TC 68 国内委員会総会を開催することができた。やはり対面は、参加者間でコミュニケーションを図るうえで良い環境と思う。はじめに、委員長として私の現状をお知らせしたい。本年 3 月末で横浜国立大学を定年退職した。現在も非常勤として在籍しているが、本年 4 月以降は産業技術総合研究所にメインの仕事を移した。私は、同研究所が「サイバーフィジカルセキュリティ研究センター」を設立して以来、クロスアポイントメントで研究センター長を務めてきたが、これは継続している。さて、ISO/TC 68 の活動は、非常に重要になってきていると考えている。我が国が国際的な存在感を保ちながら国際競争力を維持できるようにしていかなければならないという点は言うまでもない。ISO/TC 68 において様々なダイナミックな動きが顕在化している中、ISO/TC 68 国内委員会総会は、

¹ ISO（International Organization for Standardization：国際標準化機構）/ TC 68（Technical Committee 68：金融サービス専門委員会）は、金融業務に利用される情報通信技術や情報セキュリティ技術等の国際標準化を担当している。ISO/TC 68 国内委員会は、ISO/TC 68 所管の金融サービス分野における国際標準化について国内での審議および情報共有等を行うことを目的とし、本委員会の総会は議長を務める委員長が招集して年 2 回程度開催すること、本委員会の審議はこの総会において行うことを原則としており、議事については議事録を作成する（ISO/TC 68 国内委員会運営規約 <https://www.boj.or.jp/paym/iso/isotc68/data/kiyaku.pdf>）。

² 2019 年 12 月までは対面形式で開催。その後は、新型コロナ感染症拡大の影響を受けて 2020 年 6 月から昨年 12 月までの間、「オンライン形式」により開催。

委員の方々の日々の努力を整備して議論できる場として非常に貴重なものと考えている。また、委員方と事務局が協力し、総会資料を一段と整備していただいたことに感謝を申し上げる。非常に分かりやすく、短時間で全体を一望できるようなものに仕上がっている。本日は活発な議論をお願いしたい」と述べた。

- 武田局長は、「開催に際して 2 点申し述べたい。1 点目は、専門家の役割の重要性。国際標準は、幅広く採用され、ネットワーク効果を発揮することで、はじめて利用者と社会に利益をもたらす。専門家の方々が、標準化の必要性が高い領域や標準開発タイミングを見極め、関係国が納得する規格書を練り上げるために、日々、粘り強く取り組まれていることに心より敬意を表したい。2 点目は、新たな金融サービスに関する標準化の重要性。近年は、消費者の行動変化や新しい技術の台頭を背景に、新たな金融サービスが続々と登場している。人々が安心して金融経済活動を行える社会の実現のためには、新たな領域でも、伝統的な金融サービスと同様に信頼性が確保される必要がある。新しい金融サービスは、初期の段階では試行錯誤が続くため、サービス内容や採用技術は流動的である。その後の発展・変化にも対応できるように、検討の初期段階から多様な知見を取り込みつつ、特定の技術やサービス内容に過度に縛られない標準化の在り方を検討していくことが重要である。こうしたことを意識しつつ、TC68 の活動全般について、国内委員会の皆様とともに有益な情報共有と活発な意見交換したい」と述べた。

1. 委員会審議

- 1-1. ISO/TC 68 の審議体制（2023 年 12 月総会以降の変更点、2024 年 6 月 3 日時点）
- 1-2. ISO/TC 68 国際投票案件の審議および投票結果（2023 年 12 月総会以降の進捗分、2024 年 6 月 3 日時点）
- 1-3. ISO/TC 68 国内委員会総会議事録（2023 年 12 月開催分）、2023 年度 ISO/TC 68 活動報告書

事務局は、前回総会以降の ISO/TC 68 の審議体制の変更点と、この間にメール審議を実施した国際投票案件³の審議および投票結果の状況について説明を行った。また、

³ 国際規格の開発には、以下の 6 段階のプロセスがある*。予備業務項目（PWI: Preliminary Work Item）→ 新業務項目提案（NP: New work item Proposal）→ 作業原案（WD: Working Draft）→ 委員会原案（CD: Committee Draft）→ 国際規格案（DIS: Draft International Standard）→ 国際規格（IS: International Standard）。
※ 必要に応じて、DIS 投票時におけるコメントを踏まえた最終国際規格案（FDIS: Final Draft International Standard）の投票が実施され、その場合、7 段階のプロセスとなる。

日本銀行 HP 掲載済みの「前回総会議事録」および「2023 年度 ISO/TC 68 活動報告書」についても確認を行った。

2. ISO/TC 68 の報告

2-1. SC2、2-2. SC8、2-3. SC9、2-4. TC68、2-5. 質疑応答

最近の ISO/TC 68 の動向について、TC 68 および傘下の WG・MA・TG・AG 毎に、各国内作業部会の取り纏め役から、策定中のドラフトや規格について、概要・経緯・足もとの進捗状況・今後の作業スケジュールの報告項目について説明がなされた後、討議が行われた。

3. ISO/TC 68 関連の報告

3-1. ISO 20022 RMG

ISO 規格「ISO 20022」(ISO/TC 68/SC 9 所管)の登録管理グループ (ISO 20022 RMG) および同傘下の SEG 等の動向について、田貝氏 (ISO 20022 RMG Convenor) および各 SEG 等の日本メンバーから、概要・経緯・足もとの進捗状況・今後の作業スケジュールの報告があり、その後討議が行われた。

4. リエゾンからの報告

4-1. ISO/TC 307 (Blockchain and Distributed Ledger Technologies)

ISO/TC 307 国内委員会の鈴木委員より、TC 307 の最近の動向について報告が行われた。

4-2. ISO/IEC JTC 1⁴/SC 17 (Cards and Security Devices for Personal Identification)

ISO/IEC JTC 1/SC 17 国内委員会の榊委員長より、SC 17 の最近の動向について報告が行われた。

4-3. ISO/IEC JTC 1/SC 27 (IT Security Techniques)

ISO/IEC JTC 1/SC 27 専門委員会の崎村委員長より、SC 27 の最近の動向について報告が行われた。

4-4. ISO/IEC JTC 1/SC 37 (Biometrics)

⁴ ISO と IEC (International Electrotechnical Commission : 国際電気標準会議) との合同技術委員会。

ISO/IEC JTC 1/SC 37 専門委員会の坂本委員長より、SC 37 の最近の動向について報告が行われた。

5. 事務局からの連絡

5-1. 委員の異動、リエゾン交代（2023 年 12 月総会以降の変更分、2024 年 6 月 3 日時点）

5-2. ISO パネル（第 8 回、2024 年 2 月 27 日）の開催報告

5-3. 次回総会開催予定

事務局は、前回総会以降の ISO/TC 68 の WG 等新設・解散状況と委員の異動について説明を行った。また、次回総会開催予定については、ISO/TC 68 国内委員会総会は 2024 年 12 月 3 日に開催を予定していること、ISO/TC 68 国際会合および ISO 20022 RMG 国際会合は 2025 年 5 月（イタリア）で開催される予定であること等を連絡した。

6. 質疑等

総会全体を通して質疑が行われた。

閉会挨拶

ISO/TC 68 国内委員会委員長の松本産業技術総合研究所・フェロー、横浜国立大学・上席特別教授が閉会挨拶を行った。

以 上